

長峰地区まちづくり懇話会会議録（要約）

と き：平成29年9月28日（木）午後7時～午後9時00分

ところ：長峰活性化センター

出 席：

（市 側） 市長、総務部長、市民生活部長、福祉保健部長、経済部長、建設水道部長、
教育次長、消防長

（事 務 局） 秘書広報課長、企画財政課長

（長峰地区） 39名

進 行（秘書広報課長）

1. 市長あいさつ
2. 出席者自己紹介
3. 前回（平成27年度）出された質問等に対するその後の対応状況報告（総務部長）
4. 市政報告（総務部長、教育次長、消防長）
総合計画など主要施策の進捗状況について「まちづくりレポート」に基づき説明を行う
5. 意見交換会

意見①

自由民権運動の高並憲太郎が投獄されて名古屋の牢獄で読んだ歌が院内の小学校にあると聞いて見に行ったが、小学校の校長から今まで見に来た人は初めてだと言われた。もったいないと思うがどう考えているか。

回 答

今年から来年の2ケ年にかけて、大井憲太郎を顕彰します。以前院内町の時に顕彰しており、新市になり改めて発信していきたいと思っています。今、取りかかったところでこれからマンガ本の発行だけでなく講演会なども予定しています。

意見②

まちづくりレポートの第4章、健やかな暮らしを迎えるところで健康増進に結びついていのか教えていただきたい。

回 答

健康づくり戦略は24年度から始めて6年目となり、効果については一人当たりの医療費の状況を見ると、高かったのが25年以降一人当たりの医療費が県平均に近づいてきています。成人病が少しずつ減ってきており、重症化も減ってきています。

意見③

義務教育の内容で施策の充実を掲げているが、学力の向上に結びついているのか教えてほしい。中高生の短期留学は人材育成のため将来宇佐市のために役立っていただけるのか、将来的な展望に結びつくのか教えていただきたい。

回 答

市単費で複式授業改善、小規模校では複式学級がありますが、単費で解消を図っています。また、40人を超えると2学級になりますが、ぎりぎり1学級であれば、習熟度別にきめ細かく授業ができるようにしており、安心して学習できるように努めています。また、エアコンの整備などに取り組んでいます。偏差値50をすべてクリアにできたのは宇佐市が唯一となっており、全国のテストでも県内トップクラスとなっています。今後もこのような形を続けて学力向上に結び付けていきたいと思っています。

短期留学は国際感覚を身に着けるという意味と平和学習も合わせて行っており、帰ってきた生徒は確実に変わっています。物事に積極的に取り組んだりしており、今後、宇佐に残ってお世話することもあるでしょうし、外にでも宇佐市を忘れず地域愛にあふれた生徒となるよう育てたいと思っています。

意見④

定住促進、Uターンが38組、上限100万円と掲載されているが、単なる人口の増加が目的なのか、最終的な目的を教えていただきたい。

回 答

Uターン支援で38組83名が宇佐市に戻ってこられたということで、当然、人口増加が一つの目的です。日本全国で人口が減少する中、Uターンで宇佐市に定住していただき、人口が伸びなければどうしようもないと思います。平成27年に総合戦略で将来5万人を維持していこうとしています。働く場の確保ということで努力をしています。地域の活力を求めていきたいと思っています。

意見⑤

中津の子どもは中津にいけ、宇佐の子どもは宇佐に行けということではないのです。小学区制にしたらどうかということなのです。教育は高等学校の生徒のことは地域には関係ないと言えない、一体とならなくてはいけない。宇佐には私学含めて4校ありますが、地元の子は地元に残すことを考えなくてはいけないと思う。小学区制にしないと全部大分に行っているではないですか。宇佐の子どもは文部省が行っている学力テストが最高なのです。（高校教育についての回答は不要）

宇佐文化という冊子を出しています。市のほうも雑誌について、よく勉強して一緒にタイアップしたらどうかと思う。

回 答

宇佐文学の雑誌については、市もその中に加わっていききたい。タイアップしたらどうか

ということについては、文化スポーツ振興課が担当ですので、伝えたいと思います。

意見⑥

宇佐市からオリンピック選手が出てほしい。スポーツ施設の拡充を願っている。先ほどようやく、三和酒類体育館をあたと聞いてうれしく思った。健康の促進なども考えると体育施設の拡充を図ることはすばらしいと思う。国東・豊後高田市仏の里マラソンには、全国からランナーが来ていると聞いており、宇佐市にそういうマラソンを作ったらどうか。

宇佐市に中国語、韓国語、英語などしゃべれる人が何人いるか。今は、観光で日本全国に2千万人やってくるので、総じて考えないといけない。

回答

スポーツ施設の整備については、市で整備計画を立てており、院内町の平成の森スポーツ公園の整備を行っています。グラウンドには人工芝を敷き4種競技、日本陸上連盟が公認できる施設に改修しています。野球場もすばらしいものがあるし、一部改修して合宿ができるようにしています。健康増進にもかかわりますし、オリンピック選手の輩出については、輩出できれば一番いいのですが市民健康増進も目指して全体のスポーツ意識の向上を目指して整備しています。三和酒類スポーツセンターの体育館の整備については改修していません。マラソンは旧院内町からしている石橋マラソンについては県外からも参加者に来ていただいていますし、オリンピック選手であったゲストも来ていただいています。

海外からの観光客については、国も力を入れています。東南アジアからの観光客が多いということで、宇佐市にもかなり来ていただいている。観光まちづくり課の中で、中国語や英語などの通訳のできる臨時職員を採用して、インバウンド対策を図っています。

意見⑦

20歳から65歳未満の人が65歳以上の人を養うのに、健康保険料が一気に2倍になるらしい。そういうことを考えた時に子どもが宝である。中津の施設を使うと、患者が増え、お医者さんが休む暇がなくなり、医療費を無料にしたら困るといいますが、豊後高田市は来年から無料する計画がある。隣の豊後高田市は小児科の医者がたくさんいるということです。そこまで踏み込んで考えてどういう努力をするか答えてほしい。医院を増やすとか、それまでつつこんで答えてほしい。

回答

子どもの医療費については、言われたように無料化にすると、安易な受診が増えるともみられ40%くらいは受診件数が増えているという資料もありあます。ただ、症状が軽くこれ位であれば家で見ていれば大丈夫だとか、日頃親が注意していればそこまでにならないという方々も受診が増えるということになります。受診が増えれば、小児科医が限られている中、実際に患者が増えて先生方は昼も夜も重労働となっていることから、全国的にも小児科医に成り手がなく、小児科医の不足に繋がることになっています。中津市民病院は中津市、豊後高田市、宇佐市、中津の向うの福岡寄りのところは小児救急センターという役割を担っていただいております。中津市民病院の小児科の先生が夜も救急センターの

診療をしていました。昼も夜も診察し、休む暇がない、寝る時間もないということで、その体制が崩れかけたのです。今年の4月から、中津市民病院の小児科と救急センターを分けて別機関に変えました。中津市民病院の先生は昼間病院で診て、小児救急センターは夜7時から10時まで診て、その他救急の場合は市民病院の方で診るというふうに分けました。小児科の先生方の勤務状況を守るということは、小児の体制を守るということです。一つは無料化にするためのいろんな体制、診てもらおう先生にもしてもらわなくてはならないし、いろんな条件を近隣の医師会などと協議して、無料化しても受け入れられる態勢をきっちり整えていかなくてはいけないので、検討しているところです。また、保護者にも適切な医療機関の受診の仕方と病気になっても、早めに手当ができる保護者の力をつける指導をしたり、家庭でも手当が出来る対策を考えているところです。

意見⑧

スポーツ施設の拡充は、あそこでは何ができるという説明がないのです。一番宇佐市で広範囲で利用されているのは卓球や野球です。隣の中津にはたくさんあり、日田にも佐伯にもある。指導者が少なく引張って行く人がいない。一芸に秀でた人を市役所で採用してほしい。そういうまちづくりもいいのかと思う。

(持ち帰って回答)

意見⑨

宇佐市における高齢者福祉について、介護施設は旧院内町では妙見荘、安心院では妻垣荘、宇佐では老人ホームのところは民間に委託しました。今後どのような形で拡充されるのかお伺いしたい。

回 答

介護保険の関係の施設については、市としては介護保険の事業計画の中で使用していただく人数と受け入れ側施設の数と合わせて計画を立てています。今のところ充足してはいますが、認知症のグループホームは地区に足りないということになっており、今年度地区ではグループホームを建設しています。今後も必要とする人の数と施設の数とマッチングをさせながら計画を立てていくこととなります。

意見⑩

院内の妙見荘は職員不足で定員に満たないということで、職員の確保が難しいと聞いていますがどうでしょうか。本庁関係では、民間のところは別で市の管轄はショートステイとかは考えているのか。

回 答

今年度の4月から指定管理を導入して委託していますが、まだ定員が埋まっていませんが、職員の確保が出来つつあり、入所者の人数も増えています。ショートステイを休止していましたが、今後は少しずつ受け入れが出来るようになっていきます。必要とする量と施

設の確保の数を合わせながら今後計画を考えていきます。今のところは大丈夫です。

意見⑪

小学校の近くに住んでいますが、2・3年前、障害児学級の子もだと思のですが、先生が一人子どもの後ろについて、私の顔を見ないで家の中とか機械があるところとか興味を持つのです。これは自閉症の特徴です。その子は人間に興味を持っていないので、先生が子どものおもちゃになるような接し方をしなくてはならないのではないかと思うが、本当に障がい者の指導の仕方を知っているのかなと思いました。職員の方も障がい者について、深い知識がないのではないかと思う。

回 答

障がい者教育については、まだ始まったばかりで、いろんなところと連携を取りながら、その子に関する一人ひとりのノートを小さいころから先生が変わっても引き継いでいけるよう指導教育ができる体制をとっていますので、もっと充実していきたい。また、横の連携をとりながら先生の質の向上をはかり、教育の充実を図りたいと思います。

意見⑫

今、最近と言われましたが、私の子どもは38歳になります。複式学級で長峰小学校に行かせてもらえず、四日市北小に行きました。その頃から他の人も市に要望を出していると思いますが、私たちが運動して市に何度も言っています。それなのに、最近というのはおかしいのではないのでしょうか。障がい者教育については知識が不足しています。

回 答

最近というのは、語弊を呼んだようですが、障害者教育はずっとしています。

意見⑬

それが全然進展していませんよ。私の子どもを対応してくれた先生は本当に良い先生でした。小学校の間子どもの伸びはわかりましたが、今の先生をみると障がい者に対する接し方が引き継いでいかれていない。いい先生のしてきたところが引き継がれていない。転校したらだめになる。障がい者に対する接し方の引継ぎがあると思うのできちんとしていただきたい。

回 答

本とかノートとかは前から取り組んでいましたが、最近というのはもっと充実しないといけないということを使ったものです。

全体の回答補足

宇佐市では双葉山以来、宇佐学まんがシリーズで6冊漫画本を出しています。大井憲太郎は高並出身で、幕末、幕臣になって養子に入って「大井」になったのですが、明治になり西郷隆盛の西南の役後、板垣退助らが自由民権運動を展開しました。この時、大井憲太

郎が大活躍をするわけです。大井憲太郎は、教科書の中にも出てきて研究している方も多く、単年度では顕彰は難しいとのことで2年間でじっくり行い、本が出るときはシンポジウムや講演会なども行う予定です。

健康づくりですが、5年間行ってきて高かった一人当たりの医療費が県平均に近づいてきました。減塩キャンペーンや自治区ごとに健康推進員さんを任命したりチャレンジ事業を行うことで、意識があがってきましたので、一度検証してバージョンアップしようとしているところです。

学力については県下ではトップで、偏差値が50点以上全部クリアしたのは宇佐市だけです。今まで小学校は良かったのですが、中学校はちょっと良くありませんでした。市内に7校ありますが、3ブロックでわけ統一した試験を行ったり、努力しながら学力を上げていっています。学区の話ですが、高校の子どもが減ってきた時に学校の再編に入り、宇佐高校1本に統合されました。また、通学区も全県1本になったことから、昔の越境入学はなくなりフリーで入るという形になりました。通学区については県教委にお話していきたいと思います。

宇佐文学については先週宇佐文学まつりが行われていました。通巻60号ということで、熱心に取り組まれて地域だけの文芸誌が35年間続いているということは県下に例がなく文化度が高いと思います。本イベントを通して広く紹介して、自分も原稿を出そうか思ってもらえたらということでした。宇佐市も支援させていただきました。そういう企画をすることによって宇佐文学が好きな人だけの集まりでなく広がっていくのではないかと思います。

体育施設ですが、今、平成の森公園を大幅に拡充しています。野球場、屋内の施設にテコ入れをして実業団などのチームを合宿に呼びたいし、サッカーやラグビーができるようにしています。こけら落としとして企画が色々あります。卓球の備品については予算計上していますので少しずつ備品関係があがるのではないかと思います。

医療費については、中津市民病院は福大から小児科医が来て頂いていましたが、以前から引き上げたいと言われており、今年の3月で引き上げてしまいました。急きょ4月からは大分大学で4人ほど確保しましたが、10時以降の診察はできない状態で行っています。今、大学を卒業した研修医は診療科を全部まわってどんな医者になるか決めるようなシステムになっていますが、小児科・産婦人科をいやがるようになり、絶対数が足りない状況です。そういうことで、中津から福大の小児科医が引き揚げたのです。現在、大分大学とローテで地元の小児科医の方が夜間休日に何日か入ってどうにか行っていますので、状態をもうちょっとみたいと思います。豊後高田市は無料にするということですが、中津市民病院の利用状況のシェアの5%くらいしかありません。中津が54か55%くらいで宇佐市が20%くらいです。中津市と宇佐市で4分の3くらいが利用している状況で、私どもは小児科医の体制をなんとか今の状態で維持できるように考えなくてはいけないと思っています。中学生まで医療費を無料化すれば1億円が必要となります。他を削ってでも1億円を用意したが、やった結果、お医者さんが引き揚げたということとなると困りますので、医師会と中津市民病院と協議しながら考えている状況です。

介護と障害者福祉についてはありましたが、障害者教育については、教育委員会の部署になるので、伝えておきます。

